



Vol.16 1762 2018.11.14

会長挨拶 代理 藤森千憲 副会長

皆さん今日は。今年もあと一月半、そろそろ雪が降ってもおかしくない季節になってきました。タイヤの履き替えに季節でもありますがもう済まされた方はいますか？



以前雪の降る日にスパイクタイヤをはいて一般道をゆっくり走っていた時ブレーキを踏んだら車体が回転して道の柵にぶつかりそうになったことがありました。スパイクタイヤでも滑るのだなと思って以後雪道での運転は慎重になりました。

つい一週間前、車の免許の更新に警察に行ってきましたが、5年間無事故無違反ですので30分のビデオ講習ですみました。今まで書き換えの時もらう交通規則などを書いてある冊子をほとんど見たことはなかったんですが、見てみると標識の意味など忘れていたことも多々あり勉強になります。事故についても書かれてあり、事故の約90%は時速40キロ以下の走行中に発生、人身事故の90%以上は規則速度以内に発生、死亡事故の90%は事故歴のないドライバーによる、———などです。また1年間にドライバーの100人に1人が人身事故の当事者になっているとのこと。この統計にバイクや自転車が含まれているのかわかりませんが、実は私の息子も2-3年目でしたか自転車で乗っていて車道を横切ろうとしたときバイクにいきなりはねられたことがあり、幸い生命には別状なく、頭の傷をホッチキスで止める処置だけですみました。

こうみえてくと統計からは危険運転するような人でなくごく普通の運転者が市内を安全速度内で運転していても事故を起こす可能性があると言うことですね。そんなわけでこれから雪が降ったりして事故を起こす可能性が高くなりますのでくれぐれも気をつけて運転しましょう。

※別紙幹事報告書

11月度のテーマ

「R財団・米山奨学会月間」

卓話

諏訪税務署長 上杉 陽一様



「税務署長のよもやま話」

松本の生まれです。諏訪税務署は2回目の勤務となります。税務署のなかでは主に、査察(以前「マルサの女」という映画がありました)の仕事を担当していました。

税金はおなじみの税金の他にも過去にはいろいろなものに税金がかけられてきた歴史があります。そのうちのいくつかの例を紹介します。

昭和30年代には全国2700の自治体で「犬」に税金をかけていました。実は最後まで犬に税金をかけていたのが、現在は松本市になっていますが、長野県四賀村で、昭和54年まで、一頭あたり300円を徴収していました。

「ウサギ」も明治6年に当時の東京府で税金を掛けていましたが、その理由はウサギが投機の対象となっていたことが原因と推察され、主に旧武士がウサギを飼っていたようです。明治12年になって廃止されました。他にも鯨や馬にも税金が掛けられていた記録があります。

海外を見ますと、中世のフランスでは「かえる税」という金銭で納めるのではなく、鳴くかえるを追い払う仕事をする事で税金を納めるというものもありました。また他の国には「肥満税」、「ソーダ税」、ロンドンでは「渋滞税」というものもあります。

海外といえば、税務署長は海外旅行が認められていません。過去には娘さんが海外で結婚式を挙げるようになったため、参列がかなわなかった例もあります。

査察を主に担当してきましたので、査察のことをお話しますが、査察制度は70周年を迎えました。現在では全国で1300名が従事しておりその10%が女性です。

査察は最終的に検察庁へ事件として送られて裁判となり、なかには実刑判決が下されるものもあります。脱税は結局割りにあいません。



ニコニコBOX

人数 24人  
金額 55,000円

- ◎藤森千憲副会長 上杉様 卓話宜しくお願いします。
- ◎真道弘雄会員 結婚記念のお花ありがとうございます。おかげ様で50周年を迎えました、ありがとうございます。
- ◎北原正博幹事 結婚記念日のお花ありがとうございます。35周年です。今後も宜しくお願いします。
- ◎田中淳喜会員 結婚記念日、妻も娘も知らん顔。
- ◎杉本浩美会員 結婚記念日のすてきな花を頂きありがとうございます。
- ◎向角美智代会員 上杉署長、鈴木総務課長、本日は忙しいところありがとうございます。卓話よろしくお願います。
- ◎牛山武明会員 上杉諏訪税務署長をお迎えて。

出席報告

会員数 56名  
出席 44名  
出席率 79%